

社会福祉学会 News letter

第22号 2021年3月1日発行 長崎国際大学社会福祉学会（代表・脇野 幸太郎）

長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825-7 長崎国際大学 脇野 幸太郎 研究室 TEL0956-20-5514



安心して大学生活を続けていってくれる

ためにはどうしたらよいか

学科長 脇野幸太郎



卒業生のみなさん、こんにちは。社会福祉学科の脇野です。今年度より学科長に着任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

みなさんもお変わりなくそれぞれの分野でご活躍のことと思います…と申し上げたいところなのですが、一昨年末に突如として現れた新型コロナウイルスの感染拡大により、職場やご家庭で大変な思いをされている方も多いのではないかと思います。

もちろん大学も例外ではなく、感染拡大防止の観点から、昨年4月の新年度開始以降は、大半の授業をオンラインで実施する「遠隔授業」とせざるを得ませんでした。教員がZoomなどの遠隔会議システムやYouTubeを通じて授業を配信し、それらを学生が自宅で視聴するという方法です。学生たちは大学に来ることができず、動画やネットを通じてしか教職員とかわることができないため、開始当初は混乱も多く、不安や不満の声も多く聞かれました。特に、入学したばかりの新1年生は、せっかく入学した大学にほとんど通学することもできず、不安も大きかったように思います。

私たち教員も、そのような学生たちが、モチベーションを落とさずに、安心して大学生活を続けていってくれるためにはどうしたらよいか、悩み続けた1年間でした。特に、社会福祉学科の授業には、ゼミや演習科目のような少人数のクラスで、教員や学生相互のコミュニケーションを通じて福祉マインドを育成していく科目も多く、遠隔授業ではその意義が大きく損なわれてしまいます。

しかし、このような状況下でも、教員と学生がお互いに工夫をこらし、よりよい授業を模索していくなかで、「福祉の学びとはいったい何なのか」といったことを改めて考えることができ、それを通じて教員と学生の絆が深まっていくという側面もあったように思います。新型コロナウイルスがもたらしてくれた数少ない恩恵といえるかもしれません。

このように、現在の大学は苦悩と試行錯誤の真ただ中にあります。そのような中でも決して希望を失わず、ピンチをチャンスに変えながら、先輩方に続く有為な人材を輩出できるよう、教員と学生が一体となって歩み続けていきたいと思っています。その過程の中で、先輩のみなさま方のお力をお借りすることもあるかと思います。ぜひ、これからも本学社会福祉学科をあたたく見守っていただき、お力添えをいただければ幸いです。また、大学でお役に立てることがありましたら、いつでもお声がけをいただければと思います。

まだまだ厳しい状況が続きますが、卒業生のみなさま方が、それぞれの分野でご活躍を続けられますよう、心よりお祈り申し上げます。

2021（令和3）年2月20日（土）



研究室レポート：梅野潤子研究室 便り

「子どもの主体性を大切にしたソーシャルワーク」 の教育研究に取り組みたい

初めまして。令和2年4月に長崎国際大学に着任いたしました、梅野潤子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は岡山県内の大学で社会福祉を学び、不登校の子ども達の家庭訪問支援活動や手話サークル活動などに組みながら、学生時代を過ごしました。卒業年度に社会福祉士国家資格を取得し、1年間、倉敷市内の民間総合病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務しました。1,000床以上もある大病院で、赤ちゃんからご高齢の方まで、病気や障害を持ちながら地域で生活するお一人おひとりと向き合う経験をしました。その後は、東京の大学院で2年間学び、再び岡山に帰って、大学病院の小児神経科において、大学院生として障害のある子ども達の支援に関する実践研究を行いました。本学への赴任前には山口県内の大学で10年間、児童福祉やソーシャルワークの科目などを担当してきました。

私は、子どもの権利に関心を持っており、「児童福祉実践において、子ども本人がどのように支援過程に参加するか」ということをテーマとして、教育研究に取り組んでいます。スクール（学校）

ソーシャルワーク教育課程専門科目群や、児童福祉論や相談援助演習など本学での学生さんとの授業に加え、ありがたいことに、長崎県内の児童福祉分野の専門職の方々と研修や研究で一緒にする機会も早速いただいています。子どもの人生に関する重大な決定（例えば、相談機関のケースとして扱われ公的な支援が介入する、子どもが施設に入所するなど）を行う際、支援者は子ども本人にどのような説明を行い、どのように子どもの気持ちや意見を聴き、支援内容に反映させることができるでしょうか。このような「子どもの主体性を大切にしたソーシャルワーク」について、学生さんや児童福祉専門職の皆さんとともに学んでいます。

着任早々のコロナ禍で生活や仕事の仕方に多くの変化が求められましたが、学生さん、教職員や地域の皆様のおかげで1年を無事に過ごすことができました。長崎県内各地を訪れて地域の生活文化に触れながら、生活者として日々の暮らしを楽しむことも大切にしつつ、今後も教育研究に励んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。（梅野潤子）

研究室レポート：中村尚生研究室 便り

“こころ”という視点から“人を援助する”

今年度4月に社会福祉学科に着任いたしました、中村尚生と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私の専門は「臨床心理学」という分野です。本学において心理学や臨床心理学などの科目を担当いたします。臨床心理学とは、心理学の知識や技法を用いて何らかの障がいや不適応行動のある方々に対する援助方法を研究する学問です。私は、臨床心理学を大学院で学ぶかたわら、医療機関や発達支援センター、公立の小中学校などで「臨床心理士」として勤務してきました。そのなかで、さまざまな方々と出会い、多くのことを教えていただきました。“こころ”というものの奥深さや、臨床心理士として技術を向上させる以上に人として磨きをかけることの大切さなど、数えきれないほどの貴重な学びがありました。臨床心理学と社会福祉学は、近接する学問です。未だ臨床心理士

としても教員としても未熟ではありますが、“こころ”という視点から“人を援助する”ということについて学生達と学びを深めていきたいと考えています。

本学の学生は、知的好奇心をもって学問に対して誠実に向き合う姿が印象的で、私も教員として改めて臨床心理学という学問と向き合い、刺激的な教員生活を送ることができています。また、学生達には大学4年間という貴重な時間のなかで、人間関係に開かれた学生生活を送り、やりたいと思ったことには迷わず挑戦してほしいと願っています。私も新たな出会いを大切にしながら、教員としても人としても磨きをかけ、成長いきたいと思っています。

これから、どうぞよろしくお願いいたします。（中村尚生）





研究室レポート：丸山貴志研究室 便り

「認知症医療において多職種連携は重要で欠かせないもの」

みなさんこんにちは。令和2年4月から社会福祉学科に着任いたしました。丸山貴志と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、大学を卒業した後、医療関係、光学関係の営業の仕事に従事する傍ら社会福祉士の資格を目指すというかたちで福祉業界に足を踏み入れました。出身は熊本で、熊本市内の老人福祉施設に約8年間在籍していました。その法人は複数の事業所があり、デイサービス、グループホーム、養護老人ホームの生活相談員を歴任しました。最後に従事していた養護老人ホームには、もともと精神疾患があり、精神障害者保健福祉手帳や障害年金を受給しながら生活している方も多く入所されており、そのことがきっかけで精神保健福祉の分野に興味を持つようになりました。その後、大学病院の神経精神科で精神科ソーシャルワーカーとして約9年間、そこでは基幹型認知症疾患医療センターの連携担当者としての業務に従事していたのですが、そのなかで認知症専門医と共に、認知症医療や医療連携に関する研究も行っておりました。また精神科リエゾンチームとして精神科医、

精神看護専門看護師とともにチームで院内の精神疾患や精神症状がある患者への介入も行ってきました。そのため私の専門分野は精神保健福祉のなかでも認知症医療、医療連携、チーム医療です。

認知症医療やチーム医療において多職種連携や関連機関との連携は重要で欠かせないものです。一人のクライアントに複数の専門職や専門機関がかかわり支援している中で、情報が共有されないことで問題が生じたり円滑に支援できなかつたりすることは多々あります。しかし、秘密保持や個人情報保護については十分に配慮する必要があり、いかに必要な情報を共有し、いかに円滑に支援していくのかを、いろんな角度から模索し、考究していきたいと常に考えております。

本学に着任して早々、新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔授業を余儀なくされ、本年度は学生の皆さんとも交流する機会が少なかったのですが、今後とも皆さんからの意見や要望を広く聞き入れ、可能な限り多くのことを還元していけるよう心がけ、教育活動、研究活動にも精一杯取り組んで参ります。

(丸山貴志)



卒業生の今

「何事も全力で楽しむ」

15期生 川久保 愛



社会福祉法人南高愛隣会「わーくみかわち生活介護事業所」で生活支援員として従事しております川久保愛と申します。私は現在、障がいをもつ方々の生活の場の支援を主な業務として働いております。

在学中より地域福祉に興味があり、地域の中で障がいをもつ方の居場所をつくっていききたいと考え、今の職場に入職いたしました。

大学4年間では社会福祉に関わる基礎知識の座学に加え、社会福祉協議会や精神科病院、就労継続支援B型事業所での現場実習を経て、社会福祉士・精神保健福祉士の資格を取得いたしました。大学時代からの私のモットーは「何事も全力で楽しむ」ことであり、アルバイトや友人たちとの遊び、ボランティアなど、やりたいこと全てにとり

あえずチャレンジしてい

たように感じます。実は現在の職場も、大学時代に法人のボランティアに参加したことがきっかけで繋がりをもち、障がい福祉の分野への進路を決めました。

大学との座学と現場での実践との違いに悩むこともありますが、周りの職員に支えられながら、日々利用者さんと向き合うことができています。ともに人生の伴走者となって、利用者さんの思いと一緒に考え抜いていくこと、その願いを叶えるサポートをしていくことで、利用者さんの様々な表情が見られることに、やりがいを感じます。日常の中にある、利用者さんの困ったと感じる場面の声なき声を拾い、その思いに寄り添ったサポートができるような支援者を目指していきたいと考えます。

(川久保 愛)

国 家 試 験 合 格 報 告

社会福祉学科国家試験合格支援委員会

委員長 野田 健

元号が令和になり、時代の移り変わりを実感する今日、本学社会福祉学科第 17 期生（令和元年度卒）も OB・OG の皆様が築いてくださった歴史を更新すべく頑張りました。この度はその報告をさせていた

できます。

下の表をご覧ください。第 17 期生の国家試験合格率は、社会福祉士 57.9%、介護福祉士 100%、精神保健福祉士 83.3%でした。

表. 第 17 期生の 3 福祉士国家試験の受験結果データ

項目	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率	新卒合格率
社会福祉士	38	22	57.9%	29.1%	56.0%
介護福祉士	3	3	100%	69.9%	—
精神保健福祉士	6	5	83.3%	54.0%	74.0%

社会福祉士国家試験は大学始まって以来の快挙！これまで合格率が 40%台に乗ったのは、第 12 期生（平成 26 年度卒）40.0%、第 13 期生（平成 27 年度卒）40.9%、第 16 期生（平成 30 年度卒）45.7%の 3 回ですが、今回、初めて 50%を超えることができました。また、介護福祉士国家試験は 3 年前から養成校にも導入されましたが、今回を含め 3 年連続 100%！全員合格を叶えることができました。精神保健福祉士国家試験も、6 名全員が社会福祉士国家試験とのダブル受験に挑む中、見事に全国合格率や新卒合格率を超えることができました。

これもひとえに、福祉現場を盛り上げるとともに教育環境を整えてくださっている先輩方、また、いつもそばで支えてくださっているご家族の皆様のおかげです。心からお礼を申し上げます。

それから、ここでもう一つお伝えしたいことがあります。国家試験の合否がわかった時、ある学生は

一生懸命勉強した分、悔し涙をこぼしました。ある学生は、場の空気を変えまいと明るくふるまいました。ある学生は、やりきれない思いを必死に押し殺して友達の合格を祝いました。そうした学生も皆、最後まであきらめずに頑張りました。本当に第 17 期生は全員が一丸となって国試に臨みました。だからこそ、今回の 57.9%という数字が生まれたのだと思います。どうか、第 17 期生全員を讃えていただけたら、大変嬉しいです。

今、第 18 期生（令和 3 年 3 月卒）は、コロナ禍で学習環境が整わない中、たくさんの不安を抱えておりますが、それでも国家試験に向けて日々勉強に励んでおります。みなでこの困難を乗り越えてまいりますので、今後ともご支援・ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

2020（令和 2）年 11 月 6 日（野田 健）

お知らせ

第 18 回 長崎国際大学社会福祉学会総会 & 第 17 回研究発表会

◎日時：2021 年 6 月 26 日（土）13:30～（予定）

◎会場：1101 教室（ZOOM によるオンライン開催も）

・研究発表会

テーマ：「共生社会における医療ソーシャルワーカーの立ち位置」
内容

①基調講演：「地域連携における医療ソーシャルワーカーの役割」

講師：佐賀医療センター好生館 地域連携室 大石 美穂係長

②シンポジウム（最前線で実践されている MSW らにより）

③自由研究発表など

・学内学会定例総会